

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：血液検査研究班 提出日：平成 29 年 5 月 23 日 報告者：近藤 由香

行事種別	研究会	行事番号	170001122
開催日	平成 29 年 5 月 20 日 (土)		
時 間	開 始	15 時 00 分	終 了 17 時 30 分
場 所	名古屋大学医学部基礎棟 3 階 第 1 講義室 (所在地 名古屋市)		
テーマ	1 採血室の運用管理「患者満足度をあげるには」 2 体腔液とは何？検体の扱い方から標本（細胞）の見方・考え方まで		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司 会	豊橋市民病院 近藤 由香 技師		
講 師	1 名古屋大学医学部附属病院 梶浦 容子 技師 2 豊橋市民病院 内田 一豊 技師		
内 容	研究会を始める前に、山本班長より 2/18 の研究会で行ったアンケート調査の結果報告があった。アンケートの中には厳しい意見もあり、参加者が満足感をもてる研究会を運営していくことが今後の課題である。 続いて、ホームページ担当の野澤技師より、愛臨技ホームページの活用方法について説明があった。今後予定されている研究会や講演会の紹介もあり、研究班のよい PR になったのではないかとと思われる。 研究会前半は、管理者の立場として梶浦技師より、患者満足度を上げるための採血室運営管理について、ガイドラインに則った採血方法や患者のクレーム対応方法など実例を交えて講義があり、採血室の円滑な運営方法を学ぶことができた。 後半は、内田技師が体腔液の取り扱い方法と細胞の見方について講義した。体腔液に出現する細胞の形態学的特徴や鑑別が難しい細胞について詳しく解説し、普段から体腔液を扱い慣れていない技師にも非常にわかりやすい内容であった。 質疑応答でも活発な議論が交わされ、大変有意義な研究会であった。		
参加者	総数：94 名（会員 94 名、非会員 名、賛助会員 名、学生 名、 その他 名）		
共催、後援など			

2017.5.23

愛臨技學術部研究班活動報告書

所属：血液検査研究班研究班 提出日：平成 29 年 8 月 19 日 報告者：山本 ゆか子

行事種別	講演会	行事番号	170009344
開催日	平成 29 年 8 月 19 日 (土)		
時 間	開 始	15 時 00 分	終 了 17 時 30 分
場 所	名古屋大学医学部基礎棟 3 階 第 1 講義室 (所在地 名古屋市)		
テーマ	新生児期から小児期特有の病態と検査について		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司 会	名古屋大学医学部附属病院 山本 ゆか子 技師		
講 師	1. 「安城更生病院内における NICU 専任技師としての役割」 JA 愛知厚生連 安城更生病院 杉山 大輔 技師 2. 「NICU における医療の実際と関連する血液検査データの見方」 名古屋大学医学部附属病院 村松 友佳子 医師 3. 「小児骨髄不全症の形態診断」 名古屋大学医学部附属病院 濱 麻人 医師		
内 容	研究会を始める前に、山本班長より 5/20 の研究会で行ったアンケート調査の結果報告があった。研究会として満足であったとの意見が多数あった。 講演 1 では JA 愛知厚生連 安城更生病院 N I C U の紹介と、そこに専任技師として勤務している臨床検査技師の役割（貢献）についての講演であった。講演 2 では、名古屋大学医学部附属病院 N I C U を医師の目線での紹介と、新生児からどのように採血をするのかを動画を用いて解説し、検査結果を医師がどのように見ているのかが分かる講演であった。講演 3 では、WHO 分類に基づいた小児再生不良性貧血（AA）と低形成 MDS（RCC）の鑑別についてと、貧血・好中球減少・血小板減少のパターンから形態の特徴を観察し、遺伝性骨髄不全症の診断をする方法を学び、最後に小児期特有の血液悪性疾患について参加者と意見を交えながらの講演であった。同じ N I C U というフロンティアを技師からと、医師からの両方の目線で見ることができ、また講演 3 でも大変貴重な珍しい症例の形態写真を見ることができ、質疑応答でも活発な議論が交わされ、大変有意義な講演会であった。		
参加者	総数：80 名（会員 77 名、非会員 名、賛助会員 1 名、学生 名、 その他 2 名）		
共催、後援など			

愛臨技學術部研究班活動報告

所属：血液検査研究班研究班 提出日：平成 29 年 11 月 24 日 報告者：湯上 小百合

行事種別	研究会	行事番号	170039640	
開催日	平成 29 年 11 月 18 日 (土)			
時 間	開 始	15 時 00 分	終 了	17 時 30 分
場 所	スズケン名古屋 (所在地 名古屋市)			
テーマ	凝固検査について			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司 会	JA 愛知厚生連 海南病院 湯上 小百合 技師			
講 師	1. 「クロスミキシングテストが有用であった症例報告」 藤田保健衛生大学病院 佐藤 聖子 技師 2. 「検査技師に必要な新規経口抗凝固薬の情報と対策」 アイ・エル・ジャパン株式会社 阪田 敏幸 氏			
内 容	研究会を始める前に、山本班長より 8/19 の研究会で行ったアンケート調査の結果報告があった。珍しい症例表示もあり、研究会として満足であったとの意見が多数あった。今回は凝固系検査についての講演を 2 題行った。前半は藤田保健衛生大学病院の佐藤技師から、自施設でのクロスミキシングテストが有用であった症例について、後半はアイ・エル・ジャパンの阪田氏が新規経口抗凝固薬について国際血栓止血学会の情報を交えて行った。前半のクロスミキシングテストでは、抗リン脂質抗体症候群、血友病、後天性血友病それぞれの疾患について症例提示がされており、クロスミキシングテストをおこなっていない施設でも大変わかりやすい内容であった。 後半は、新規経口抗凝固薬が凝固検査に及ぼす影響について注意しなければならない点や、ガイドラインに則って DOAC 血中濃度測定の必要性が認められるケースについても解説された。また、凝固系検査をおこなう際に注意しなければならない、採血量・採血手技と検査結果の関係について、症例提示をしておいたため大変わかりやすい内容であった。 参加者から、採血スピッツで凝固系を採血する順序について、クロスミキシングテストを実施する際の APTT の延長時間についてなど、日常で感じていた疑問についての質疑応答が交わされ、大変有意義な研究会であった。			
参加者	総数：41 名 (会員 名、非会員 名、賛助会員 名、学生 名、 その他 名)			
共催、後援など				

愛臨技学術部研究班活動報告

所属：血液検査研究班研究班 提出日：平成 30 年 1 月 22 日 報告者：今井 正人

行事種別	基礎講座	行事番号	170057336
開催日	平成 30 年 1 月 21 日 (日)		
時 間	開 始	9 時 30 分	終 了 16 時 30 分
場 所	名古屋大学医学部基礎棟 3F 第 1 講義室 (所在地 名古屋市)		
テーマ	初心者向け血液像の見方		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司 会	愛知医科大学病院 今井 正人 技師		
講 師	1.「顕微鏡の正しい使い方」 オリンパス株式会社 岡留 竜弥 氏 2.「末梢血液標本の作製から末梢血液細胞鑑別の基礎」 JA 愛知厚生連 江南厚生病院 川崎 達也		
内 容	今回の基礎講座は初心者向け血液像の見方をテーマに午前中に講演を 2 題、午後に顕微鏡実習を行った。午前の講義では、血液像をこれから読み始める人、または読み始めたばかりの人を対象に、前半はオリンパス株式会社の岡留 竜弥氏が顕微鏡の正しい使い方について、後半は江南厚生病院の川崎 達也技師から末梢血液標本の作製から末梢血液細胞の鑑別の基礎について細胞写真を用いた練習設問も交えて細胞の見方を講演した。前半の顕微鏡の正しい使い方では、使用中に遭遇する顕微鏡のトラブルの対処方法や手入れについて説明し、次いで顕微鏡の知識として各部品の解説や光軸調整や視度調整のやり方を教えていただき、初心者だけでなく経験者も知らなかったことがあり大変わかりやすい内容であった。後半は、末梢血液標本の作製の流れ、染色について、標本作製の注意ポイント、観察手順について画像を多く取り入れわかりやすく解説し、各血球系の形態について多くの細胞画像を提示しながら解説して大変わかりやすい内容であった。 午後からの顕微鏡実習では、受講者が二人一組となって正常末梢血液標本をカウントし正常細胞の鑑別、観察手順について確認を行った。その後、用意した 4 症例について観察やカウントをして、各症例を担当する血液検査研究班の班員がその場で質問に回答したりアドバイスをを行った。最後に各症例の解説を行い、観察のポイントや疾患について、技師として注意することなどのレクチャーを行った。受講者からは好評な感想をいただき大変有意義な基礎講座であった。		
参加者	総数：59 名（会員 59 名、非会員 名、賛助会員 名、学生 名、 その他 名）		
共催、後援など			

愛臨技学術部研究班活動報告

所属：血液検査研究班研究班 提出日：平成 30 年 2 月 25 日 報告者：亀山 なつみ

行事種別	研究会		行事番号	170064053	
開催日	平成 30 年 2 月 17 日（土）				
時 間	開 始	15 時 00 分	終 了	17 時 00 分	
場 所	リップルスクエア（所在地 名古屋市）				
テーマ	1. 平成 29 年度愛臨技精度管理調査報告 2. フローサイトメトリー検査について				
生涯教育履修点数	基礎教科 20 点				
司 会	名古屋大学医学部附属病院 亀山 なつみ 技師				
講 師	1. 血球計数部門報告 豊田厚生病院 酒巻 尚子 技師 形態部門報告 愛知医科大学病院 寺島 舞 技師 2. 株式会社エスアールエル 前田 久美子 氏				
内 容	はじめに、11 月に行われた研究会と 1 月に行われた基礎講座でのアンケート集計結果が山本班長より報告された。 その後、前半では平成 29 年度愛臨技精度管理調査報告を行った。血球計数部門の報告では、項目によってなぜ全機種一括評価にしたのか、機種別評価にしたのかを詳しく解説し、評価判定の方法を説明した。形態部門の報告では、ひとつずつの細胞の特徴を説明し、回答を行った。今年度は新たな試みとして、凝固・線溶項目に関する文章設問が出題されたため、その解説およびアンケート集計結果の報告を行った。今年度の結果やアンケート調査を参考にし、来年度以降も凝固・線溶項目について文章設問の継続を検討している旨を述べた。 後半では、フローサイトメトリー検査について、SRL の前田氏が講演を行った。フローサイトメトリーの原理や細胞の分化・成熟など基礎的な知識から、造血管腫瘍解析における抗体選定・組み合わせ、典型的な複数の症例を提示しての解析方法、結果の解説が行われた。検査結果を理解するための知識全般が網羅されている内容で、大変わかりやすい内容であり、会場からの質疑応答も活発であった。研究会で実施してきたアンケートでもフローサイトメトリーについての勉強会の要望があがっていたため、今回実施できたことは大変有意義であった。				
参加者	総数：74 名（会員 74 名、非会員 名、賛助会員 名、学生 名、 その他 名）				
共催、後援など					